



なかみち通信

VOL.
49

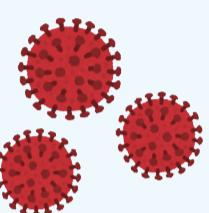


コロナ禍の生活支援強化で共生社会の実現を!

第2回定例会中の6月20日に、代表質問を致しました。ここで斎藤区長との質疑応答をご報告させて頂きます。

問1 コロナ禍の今後の生活者支援、事業者支援のあり方について。

答1 経済の活性化や区民生活を守るために、積極的に臨時交付金等を活用していきたい。



問2 新型コロナウィルス感染症対策について。

- ①医療体制の更なる確保、充実について。
- ②煩雑化する保健所の体制について。
- ③クラスターの発生が危惧される施設職員の定期的な検査の実施について。
- ④ワクチン接種の推進、中でも医療従事者への推進が必要だと考えるが。
- ⑤若い方への啓蒙について。
- ⑥学校における子どものコロナ対策について

答2 ①国や都、医師会等と連携して区民の安心に繋がるような体制を構築していきたい。

- ②患者の安全を最優先する視点で保健所体制を見直し、強化している。
- ③現在、抗原定性検査キットによる検査を実施。引き続き活用したい。
- ④様々な媒体で周知を行っており、医療従事者等への接種は国の動向を注視する。
- ⑤引き続き、医師会と連携し支援を継続する。また、後遺症に関する情報や相談窓口の周知を行っていく。
- ⑥熱中症の危険性を十分理解していただき、マスクの着脱について、児童生徒や保護者に協力を求めている。



問3 今後の災害対策の方針について。

- ①地域防災計画のブラッシュアップと防災ゲームの活用について。
- ②避難行動への啓蒙活動について
- ③避難所のシャワー機能の必要性について



答3 ①被害想定の内容を検証し、都の動きをにらみながら地域防災計画のブラッシュアップを進めていく。

- また、防災ゲームについては、有効性を検証しつつ広めていきたい。
- ②講演会や区民ニュース、防災アプリを活用し啓発に取り組む。
 - ③衛生面やストレス軽減に繋がるため、既存施設の活用や購入を検討したい。

問4 江戸川区の今後の教育について。

- ①教育長の4つの抱負を具体的に。
- ②区の抱える課題の認識と改善について。
- ③区の子どもの良さと地域の強みとは。
- ④区の教育にとって未来を見据えてどのようなことが重要と考えているか。



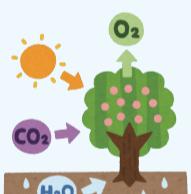
答4

(蓮沼新教育長答弁)

- ①学びを楽しみに登校し満足して家路につく学校。子どもが学校での出来事を楽しそうに話してくれる学校。地域が子ども達の元気な姿を見てわが町の学校と誇れる学校。教職員が勤務を続けたい、自身の指導する力が高まったと思える学校である。
- ②不登校対策、学力向上が課題である。子ども達に寄り添い、ICTも活用していく。
- ③子どもたちは素直で屈託がなく、人懐っこい。地域の温かさを感じ、地域力を活かして教育活動を展開できることが良さと強みである。
- ④時代に関わらず必要な学び、時代に合わせた学びの両方に力を入れ、誰一人取り残すことなく学ぶ楽しさや生きる幸せを実感できる教育を推進していく。

問5 脱炭素の取り組みについて。

- ①新庁舎整備におけるCO₂排出実質ゼロへの取り組みについて。
- ②民間を巻き込み脱炭素先行地域への応募を。
- ③公共施設でのリサイクル品の活用について。



答5

- ①省エネ技術と再生可能エネルギーの導入、グリーン証書付き電力の調達によりCO₂排出実質ゼロを目指していく。
- ②民間企業の協力と意見を伺いながら、早い段階で応募させていただきたいと思っている。
- ③リユース品の導入について検討している。

問6 ひきこもり対策について。

- ①実態調査結果をどのように分析しているのか。
- ②今後、区全体でどのように進めていくのか。
- ③条例制定に対する区長の考え。



答6

- ①調査を通して、挙がってきた様々な課題に対する策を検討していきたい。
- ②ケースに応じ連携できる機関を幅広く開拓し、切れ目のない支援を実施していきたい。
- ③支援のあり方を含め、検討していきたい。

問7 外国人アンケート調査結果を受け、どのような支援を進めていくのか。

- 答7 ユニバーサルデザインマスターplanの策定、生活情報ガイドブック等の多言語化等を進め、さらに暮らしやすい支援策を展開していく。

